

【高等学校用】

令和2年度学校評価

結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立唐津商業高等学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 県内就職率は、64%まで向上することができた。 地域貢献活動は、現状では一部の生徒の取組に留まっていることから、今後は部活動単位での活動を広げていく。
------------------	--

2 学校教育目標	生徒一人ひとりの能力を伸ばし、ビジネスの知識と技術を習得させて地域や経済社会の発展に寄与しうる、心豊かで心身ともにたくましい人材を育成する。
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>① ビジネス教育の実践と部活動を通して、地域貢献できる人材を育成する。</p> <p>② 学習活動と部活動を両立し、充実した高校生活を送ることができる学校として「選ばれる高校」を目指す。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 いじめの早期発見、早期対応体制の充実 唐津への愛着の醸成するための育成 	<ul style="list-style-type: none"> HR活動や部活動において倫理観を植え付け、諸活動を通して目標を持って取組み達成する心を養う教員の割合90%以上 日頃からいじめ防止策(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応できると回答できる教員90%以上 「佐賀県や唐津市に誇りと愛着を感じる」と回答する生徒85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の多様性を理解できる生徒を育てる。 情報モラルについては、定期的に集会を開き全体での周知に努める。 いじめの認知・覚知の定義について職員会議を開き周知するとともにマニュアルの作成・見直しを行う。 いじめの早期発見に繋がるよう主任会等で情報収集に努める。 唐津の伝統文化や地域貢献活動を行っている人に講演を依頼し、佐賀に愛着が持てる人材を育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 社会の多様性に即した校則の見直しを行った。 薬物乱用防止講演会で、SNSのトラブルについて警察より話してもらった。 年度当初の休校期間もあったため、学校再開後は特にいじめに注意するよう職員朝礼などで周知を図った。 毎週、主任会で生徒の動向に関する情報収集を図り未然防止に努めた。 名護屋城博物館より講師を招聘し、「肥前名護屋城と諸大名陣屋について」講演していただき、唐津市への誇りと愛着を確認してもらえよう努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> SNSの発信方法によっては、相手を傷つけてしまうことを講演会を通して認識できた、と生徒がアンケート調査で61.5%回答した。 法によるいじめの正確かつ積極的な認知について職員研修会を開き、研修を行った。その結果、教員の96.9%が認識が高まったと回答。生徒も51.1%がいじめを許さない教育が行われていると回答している。 唐津の伝統文化や歴史に親しみを持って地元愛の育成につながる講演会を開催し、誇りを持って佐賀に住み続ける生徒を育てる講演会を実施。生徒は、概ね93.9%が愛着を持ったと回答。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 状況にあった校則の見直しは進めるべきである。 SNSの使い方は、いじめにもつながるので繰り返し注意することが必要。 いじめについては、大変難しい問題が多い中、精一杯の防止策が講じられていると思う。 生徒の自律性が良いのではないかと。 地元への愛着について今後も継続できればいいと思う。 唐津についての知識を多く学ばせる努力をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権同和教育担当 生徒指導 各学年主任 教育相談 教務 管理職
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 	<ul style="list-style-type: none"> 「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 朝食喫食率調査の継続。(昨年度、後半の喫食率が下がったため、分析を行い改善策を検討する。) 手作り弁当の推奨。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を摂ることの大切さを毎月発行している「保健だより」等で周知し、健康の源であることを認識させるようにした。 12月に食育アンケート実施し、1月の食育便りに結果を報告予定。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「いのちとたべもの」をテーマに外部講師を招き講演会を実施。また、アンケート調査も実施して朝食を毎日食べますか。の質問に昨年度に比べ3.7%上昇の86%であった。また、健康であるために食事は大切であるとする生徒は94.8%と回答。96.7%の生徒が手作り弁当を持参している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 食育の大事さが生徒にも十分伝わっていると思う。 家庭での食事の仕方が重要になると思う。 朝食の喫食率が改善しているのは、数値でわかる。今後も90%を超える高い目標を目指して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 年休取得の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する 全職員の時間外勤務時間を前年度の10%減にする 全職員月1回以上の年休取得 	<ul style="list-style-type: none"> 定時退勤日を毎週水曜日に設定 学校閉庁日8月11日～14日設定 主任会議での提案者資料説明の簡略化による会議時間の短縮 年休取得の呼びかけ 部活動試合等の計画的実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎週の定時退勤日には、職員朝礼で呼びかけを行った。 学校閉庁日に夏休5日間をなるべく取得するよう呼び掛けた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校閉庁日を4日間設定し、職員のほとんどがこの期間に休業を取ることができた。 年度当初の臨時休業期間もあり、時間外勤務は昨年度に比べ10か月間で8カ月が減少した。 年休が取れるときには、管理職から短時間でも取って休業を取るよう声掛けを行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後も先生方のワークライフバランスを大事にしていただきたい。 部活動の休業日も取れてリフレッシュできていると思う。 是非、働きやすい職場にしてほしい。それが先生の能力発揮に繋がると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職 管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○ビジネス教育の育成	<ul style="list-style-type: none"> 唐津学美舎(インターネット・ショッピング・モール)の活動を通して地域産業に貢献する 	<ul style="list-style-type: none"> 未来の唐津を担う人材として会社で活躍できる生徒の育成 地域商品の販売促進協力 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中小企業が生き残るためのアイデアを事業主とともに考えPRできる取り組みを考えていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業や協賛企業からの校外販売実習もほとんど依頼がなかった。そのため、県庁での販売実習を2日間開催し、活動をPRした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 従来のショッピングモールだけでなく、佐賀ファンブログ等宣伝方法を広げるとともに、企業・商品の広告デザイン実施回数を増やす等、地元企業支援の多様な貢献ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性をもっと持たせてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 商業科

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍、学校行事をどう行っていけばいいのか。例年通りとはいかなかった1年であった。しかし、各校務分掌が知恵を出し合って生徒に最良の形で実施できるように考え行事を遂行することができた。 生徒の進路保障は、最大の懸案事項であったが就職・進学100%を達成できた。家庭と学校が一体となって取り組んだ成果だと評価できる。また、県内就職は、昨年度64%→75%に上昇したことは大きな成果であった。 次年度は、生徒が40人減少する。3年間で120人の生徒が減少するため、学校の勢いを維持するための方策を考えていかなければならない。
--------------------	--